

し彼一再びの家に歸らず彼の獅も最早かれを認めし然れ我ハわが口を禁めず我心の痛により

たまふやわが床れを慰めわが寢床わが愁を解んと思ひをる間に故夢をもて我を驚かし異象をも

て我を懼れしめたまふ是をもて我心ハ氣息の閉んてを願ひ我の骨よりも死を冀かふわれ生命

を厭ふ我ハ永く生ることを願はず我を捨てたまへ我日ハ氣のどきなり人を如何なる者として

汝これを大にし之を心に留朝ごとに之を看うなはし照わかす之を讀みたまへ何時ぞ汝れか

目を離さず我が津を咽ひ間も我を捨てたまはざるや人を墜かたたま者よ我罪を犯したりとて汝に

何をか爲ん何ん我を汝の的となして我にこの身を厭はしめたまふや汝んん我の愆を赦さず我罪を

除きたまはざるや我いま士の中に睡らん汝我を驚ねたまふとも我ハ在るべし

一 庶にモヒヒルガ答へて曰く何周まで汝かゝる事を言や何時まで汝の日の言語を大

風のごとくするや神のお審判を曲たたまえんや全能者めに公義を曲たたまはんや汝の子等かれに罪を

獲るにや之をの徳の手に付したまへり汝も神に求め全能者に仰り清くかつ正しうしてわら

ハ必ず今汝を願み汝の義き家を榮えしめたまへん然らば汝の始り微くも汝の終り甚だ大なら

九 讀み汝過にし代の人に問へ彼らの父祖の尋究めしところの事を學べ我ら昨日より有じのみに

て何をも知ず我らが世にある日ハ影のごとし彼等なんちを教へ汝を諭し言をの心より出さざら

なや筆おに泥なくして長んや秘めに水なくしてうだくんや是ハの青くして未だ知ざる時にも他の

一切の草よりハ早く腐る神を忘る者達の凡て是のごとく憐れ者の望ん空しくなるの情む所

ハ絶れこの儂とこらハ蜘蛛のごとしこの家に儂かゝらんとすれば家立す之を堅くとりすがる保

たじ彼日の前本青線を早はしこの根を園中蔓延らせこの根を石堆に盤みて石の屋を喰ひれども

若この處より取のつかれなハの處これを認めずして我ハ汝を見たる事なして言九 祿よの徳の喜樂

是のごとし而してまた他の者地より生いでんそれ神ハ完全人を築たまはすまた悪き者其手を執りた

まはす孫お咄笑をもて汝の口に充し歡喜を汝の唇お置たまへん汝を惡む者ハ羞耻を著せられ惡き

者の住所ハ無なるべし

ヨブがたへて言けるハ我まことお其事の然るを知ら人いかに神の前お義かたるべけん

よし人ハ神と辨争えんとするも千の一も答ふることも能とざるべし神ハ心懸く力強くまじせず

誰か神も逆らひての身安からんや彼山を移したまへん山を動かさず彼震怒をもて之を翻したまふ

ハ唯かれ獨天を張り海の濤を廢たたまへまた北斗參宿馬宿ふよび南方の密室を遣りたまへ大なる

事を行なひたまふこと測られず奇しき業を爲たまふこと欺えれず神よ彼わが前を過たたまへ然るも我

これを見ず彼すよみゆき賜ふ然るに我之を曉す彼奪ひ去賜ふ誰か能之を阻ん誰か之に汝何を爲や

と云て之を得爲ん神其震怒を息賜すラハを助る者等之が下を屈し然れ我争か彼に回答を爲てど

を得ん争われ言を選びて彼と論らんと事之をえんや假令われ義かるとも彼も回答をせし彼ハ我を審判く

者なれば我彼を哀き求ん假令我彼を呼て彼れに答たまふともわが言を聴いれ賜ひしハ我信せざる

なり彼ハ大風をもて我を擊碎き故なくして我に衆多の傷を負せ我ハ息をつかじめず苦事をもて

約百記

ハ絶れこの儂とこらハ蜘蛛のごとしこの家に儂かゝらんとすれば家立す之を堅くとりすがる保

たじ彼日の前本青線を早はしこの根を園中蔓延らせこの根を石堆に盤みて石の屋を喰ひれども

若この處より取のつかれなハの處これを認めずして我ハ汝を見たる事なして言九 祿よの徳の喜樂

是のごとし而してまた他の者地より生いでんそれ神ハ完全人を築たまはすまた悪き者其手を執りた

まはす孫お咄笑をもて汝の口に充し歡喜を汝の唇お置たまへん汝を惡む者ハ羞耻を著せられ惡き

者の住所ハ無なるべし

ヨブがたへて言けるハ我まことお其事の然るを知ら人いかに神の前お義かたるべけん

よし人ハ神と辨争えんとするも千の一も答ふることも能とざるべし神ハ心懸く力強くまじせず

誰か神も逆らひての身安からんや彼山を移したまへん山を動かさず彼震怒をもて之を翻したまふ

ハ唯かれ獨天を張り海の濤を廢たたまへまた北斗參宿馬宿ふよび南方の密室を遣りたまへ大なる

事を行なひたまふこと測られず奇しき業を爲たまふこと欺えれず神よ彼わが前を過たたまへ然るも我

これを見ず彼すよみゆき賜ふ然るに我之を曉す彼奪ひ去賜ふ誰か能之を阻ん誰か之に汝何を爲や

と云て之を得爲ん神其震怒を息賜すラハを助る者等之が下を屈し然れ我争か彼に回答を爲てど

を得ん争われ言を選びて彼と論らんと事之をえんや假令われ義かるとも彼も回答をせし彼ハ我を審判く

者なれば我彼を哀き求ん假令我彼を呼て彼れに答たまふともわが言を聴いれ賜ひしハ我信せざる

なり彼ハ大風をもて我を擊碎き故なくして我に衆多の傷を負せ我ハ息をつかじめず苦事をもて

約百記







の交よりも年高し、神の恩難よび夫の柔かき言詞を汝小しとするや、ななち何ぞかく心狂ふや、何ぞかく目をまばたけりや、神に對ひて氣をいらだて斬る言詞をなんちの口よりいだすか、如何や、人如何なる者ぞ、如何してか深からん婦の産し者如何なる者や、云何してか義からん、若し神の聖者にすら信を置たまはば、諸の天もの目の前に、潔からざるなり、況んや罪を取ることを水が飲がぶとくする憎むべき穢れたる人ぞや、我か、なちに語る所あらん聴よ、我見たる所を述べ、是す、なば、智者等が父祖より受て隠すべからざる無く傳へ來し者なり、彼らに而巳の地の授けられ、外國人の彼等の中に往來せしこと無りき、悪き人々の間の生る日の間つねに悶之苦しむ、強暴人の年々數へて定めかかる、この耳に、常に懼怖しき音きて之平安安け、時に滅ぼす者これに臨む、彼の幽暗を出得るとい信ぜず、目ざりて、劍に付する、彼食物の何處にありや、と云つて尋ねありき、黒暗日の備へられて巴の側に、あるを知る、患難と苦痛と、いかに懼れしめ、闘の準備をなせる王のまどとして、彼に打勝ん、彼の手を、を伸て、神を敵し、傲りて全能者に悖り、頭を強くし、厚き楯の面を向て之に馳かくり、面を肉を流せ、腰に脂を凝じ、口荒びたる、巴々に住居を設けて、人の住べからざる家石堆となるべき所に居る、是故、彼の富す、この貨物の、永く保たさ、この所有物の、地も蔓延す、また、自己の、黒暗を出るに至らず、火燭の、枝葉を枯せんと、而して、この身、神の口の、氣吹によりて、亡ゆかん、彼の虚妄を、待みて、自ら欺むべく、からず、其、虚妄な、るべけれど、なり、彼の日の、來らざる、先に、其事成べし、彼の、枝、線ならし、彼の、葡萄の、樹の、熟せざる、果を、振落す、がごとく、橄欖の、樹の、花を、落す、がごとく、あるべし、邪曲なる者、は、宗族の、辱、落れ、賄賂の家、火に、焚えん、彼等、の、惡念を、孕み、虚妄を生み、この胎にて、詭計を、圖ふ

一 何三〇  
二 何三〇  
三 何三〇  
四 何三〇  
五 何三〇  
六 何三〇  
七 何三〇  
八 何三〇  
九 何三〇  
一〇 何三〇  
一一 何三〇  
一二 何三〇  
一三 何三〇  
一四 何三〇  
一五 何三〇  
一六 何三〇  
一七 何三〇  
一八 何三〇  
一九 何三〇  
二〇 何三〇  
二一 何三〇  
二二 何三〇  
二三 何三〇  
二四 何三〇  
二五 何三〇  
二六 何三〇  
二七 何三〇  
二八 何三〇  
二九 何三〇  
三〇 何三〇  
三一 何三〇  
三二 何三〇  
三三 何三〇  
三四 何三〇  
三五 何三〇  
三六 何三〇  
三七 何三〇  
三八 何三〇  
三九 何三〇  
四〇 何三〇  
四一 何三〇  
四二 何三〇  
四三 何三〇  
四四 何三〇  
四五 何三〇  
四六 何三〇  
四七 何三〇  
四八 何三〇  
四九 何三〇  
五〇 何三〇  
五一 何三〇  
五二 何三〇  
五三 何三〇  
五四 何三〇  
五五 何三〇  
五六 何三〇  
五七 何三〇  
五八 何三〇  
五九 何三〇  
六〇 何三〇  
六一 何三〇  
六二 何三〇  
六三 何三〇  
六四 何三〇  
六五 何三〇  
六六 何三〇  
六七 何三〇  
六八 何三〇  
六九 何三〇  
七〇 何三〇  
七一 何三〇  
七二 何三〇  
七三 何三〇  
七四 何三〇  
七五 何三〇  
七六 何三〇  
七七 何三〇  
七八 何三〇  
七九 何三〇  
八〇 何三〇  
八一 何三〇  
八二 何三〇  
八三 何三〇  
八四 何三〇  
八五 何三〇  
八六 何三〇  
八七 何三〇  
八八 何三〇  
八九 何三〇  
九〇 何三〇  
九一 何三〇  
九二 何三〇  
九三 何三〇  
九四 何三〇  
九五 何三〇  
九六 何三〇  
九七 何三〇  
九八 何三〇  
九九 何三〇  
一〇〇 何三〇

ヨナ答へて曰く、斯る事、我は、聞く、汝ら、い、人、を、思、さ、め、ん、と、して、却、つ、て、人、を、煩、え、す、者、な、り、虚、し、き、言、語、を、お、し、終、極、の、ら、ん、や、汝、な、に、お、願、ひ、さ、さ、れ、て、應、答、を、な、す、や、我、も、ま、た、汝、ら、の、如、く、に、言、て、之、を、得、し、も、し、汝、ら、の、身、が、身、と、處、を、換、な、べ、我、の、言、語、を、練、て、汝、ら、を、攻、め、汝、ら、に、ひ、か、ひ、て、首、を、搦、こ、と、を、得、ま、た、口、を、も、つ、て、汝、ら、を、強、く、し、唇、の、恩、難、を、も、つ、て、汝、ら、を、解、こ、と、を、得、る、な、り、た、と、い、我、言、を、出、す、と、も、我、惡、心、の、解、す、る、と、も、何、ぞ、我、身、の、安、く、な、る、と、有、ん、や、彼、の、ま、じ、ら、し、我、を、疲、ら、し、む、汝、が、宗、族、を、こ、と、で、ご、く、荒、せ、り、な、ん、な、我、を、去、て、滅、ら、さ、め、た、り、是、れ、に、向、ひ、て、見、証、を、な、す、な、り、又、汝、が、瘦、お、と、ろ、へ、たる、罪、鏡、が、面、の、前、に、現、れ、立、て、我、を、攻、む、か、れ、怒、つ、て、我、を、擲、裂、き、か、つ、響、し、め、我、に、ひ、か、ひ、て、齒、を、嚼、み、し、我、敵、と、な、り、目、を、銳、し、て、我、を、看、る、彼、ら、我、を、ひ、か、ひ、て、口、を、張、り、我、を、腹、し、め、て、わ、が、頬、を、打、ち、相、集、ま、り、て、我、を、攻、む、神、れ、我、を、邪、曲、お、る、者、に、交、じ、惡、き、者、の、手、を、擲、ち、た、ま、へ、り、我、の、安、穩、な、る、身、な、り、し、も、彼、の、い、た、く、我、を、打、懼、ま、じ、頸、を、執、へ、て、我、を、う、た、ぐ、だ、き、遠、く、我、を、立、て、踏、こ、な、し、た、ま、ひ、この、射、手、を、我、を、繞、り、圍、め、り、や、が、つ、て、情、も、な、く、我、腰、を、射、透、じ、わ、が、腰、を、地、に、流、れ、出、し、め、た、ま、ふ、彼、ら、我、を、打、取、り、て、破、壞、に、破、壞、を、加、へ、真、士、の、で、と、く、我、を、奔、か、り、た、ま、ふ、我、れ、麻、布、を、わ、が、肌、に、縫、つ、け、我、角、を、磨、お、つ、て、汚、せ、り、わ、が、面、に、泣、け、り、な、り、我、目、縁、の、入、死、に、臨、み、わ、り、然、れ、ど、も、我、手、に、は、不、義、の、る、と、無、く、わ、が、所、禱、の、清、し、地、に、我、血、を、拭、け、な、か、れ、我、號、呼、ひ、休、れ、處、を、得、ざ、れ、視、よ、今、に、も、我、証、と、お、る、者、天、を、あ、り、わ、が、眞、實、を、表、明、す、者、高、き、處、を、あ、り、わ、が、朋、友、の、我、を、嘲、け、れ、お、し、我、目、の、神、を、わ、か、ひ、て、痕、を、注、ぐ、願、ひ、の、彼、人、の、た、め、に、お、神、と、論、辨、し、人、の、子、の、た、め、に、こ、れ、が、朋、友、と、論、辨、せ、ん、と、こ、を、我、年、々、す、ぎ、ら、ば、我、の、選、ら、れ、た、旅、路、を、往、べ、し、わ、が、氣、息、已、に、く、と、り、我、日、す、で、に、盡、な、ん、と、し、憤、懣、れ、れ、を、待、つ、よ、こ、と、お、嘲、弄、者、等、わ、が、傍、

一 何三〇  
二 何三〇  
三 何三〇  
四 何三〇  
五 何三〇  
六 何三〇  
七 何三〇  
八 何三〇  
九 何三〇  
一〇 何三〇  
一一 何三〇  
一二 何三〇  
一三 何三〇  
一四 何三〇  
一五 何三〇  
一六 何三〇  
一七 何三〇  
一八 何三〇  
一九 何三〇  
二〇 何三〇  
二一 何三〇  
二二 何三〇  
二三 何三〇  
二四 何三〇  
二五 何三〇  
二六 何三〇  
二七 何三〇  
二八 何三〇  
二九 何三〇  
三〇 何三〇  
三一 何三〇  
三二 何三〇  
三三 何三〇  
三四 何三〇  
三五 何三〇  
三六 何三〇  
三七 何三〇  
三八 何三〇  
三九 何三〇  
四〇 何三〇  
四一 何三〇  
四二 何三〇  
四三 何三〇  
四四 何三〇  
四五 何三〇  
四六 何三〇  
四七 何三〇  
四八 何三〇  
四九 何三〇  
五〇 何三〇  
五一 何三〇  
五二 何三〇  
五三 何三〇  
五四 何三〇  
五五 何三〇  
五六 何三〇  
五七 何三〇  
五八 何三〇  
五九 何三〇  
六〇 何三〇  
六一 何三〇  
六二 何三〇  
六三 何三〇  
六四 何三〇  
六五 何三〇  
六六 何三〇  
六七 何三〇  
六八 何三〇  
六九 何三〇  
七〇 何三〇  
七一 何三〇  
七二 何三〇  
七三 何三〇  
七四 何三〇  
七五 何三〇  
七六 何三〇  
七七 何三〇  
七八 何三〇  
七九 何三〇  
八〇 何三〇  
八一 何三〇  
八二 何三〇  
八三 何三〇  
八四 何三〇  
八五 何三〇  
八六 何三〇  
八七 何三〇  
八八 何三〇  
八九 何三〇  
九〇 何三〇  
九一 何三〇  
九二 何三〇  
九三 何三〇  
九四 何三〇  
九五 何三〇  
九六 何三〇  
九七 何三〇  
九八 何三〇  
九九 何三〇  
一〇〇 何三〇

に在り我目ハ彼らの競争よを常に見ざるを得ず 願くハ質を賜ふて汝みづから私の保証となりたを入  
 愈らしたまはし 朋友を交付して拵奪も運去むる者ハ其子等れ目潰るべし 彼れを世の民の笑柄と  
 ならしめたまふ 我ハ面も唾せらるべき者となれり かつまた我目ハ憂によりて昏み 肢體ハ凡て憂の  
 ごとし 義き者ハ之に驚き 無善者ハ邪曲なる者を見て憤る 然ながら義しき者ハ之の道を堅く持ち  
 て 手の潔き者ハみずく力を得るなり 請ふ汝ら皆たよび來れ 我ハ汝らの中に一人も智き者あるを  
 見ざるなり かの日ハ已に過ぎ、わが計る所わが心に盡公所ハ已に取れたり 彼ら夜を書に變へ、黑暗の  
 前に光明のうづく 我もも候ところ有べ是わが家たるべき陰府なるのみ、我ハ黑暗中にわが床を展公、わ  
 れ枵腹に向ひて、汝りわが父なりと言ひ、蛆に向ひて、汝り我母わが姉妹なりと言ふ 然わが望みい  
 づくにかわる、我望み誰かこれを見る者あらん 是ハ下りて陰府の關に到らん、之と齊しく我身ハ塵の中  
 に臥すべし

**第十八章** シュヒヒルガラテたてて曰く 汝等いつまで言語を獵求むることをするや、汝ら先曉る  
 べし、然る後われら論辨せん われら何ぞ歡喜とおもはるべけんや、何ぞ汝らの目に汚穢たる者と見らる  
 べけんや なんと怒りて身を裂く者よ、汝のためとて地わに棄られんや、磐わに其處より移されんや、惡  
 き者の光明ハ滅され、其火の燄も照し、その天幕の内なる光明ハ暗くなり、其が上の燈火ハ滅さるべし  
 またその強き步履ハ寂せり、其計るどころハ自分分を陷しいる すなごら其足を透れて網に到り、また陷阱  
 の上を歩むに 牽ろの踵に纏り、縋これ執入、索かれを執ふるために地に墮し、わり、縋かれを墮し、

一節三十三  
 二節三十四  
 三節三十五  
 四節三十六  
 五節三十七  
 六節三十八  
 七節三十九  
 八節四十  
 九節四十一  
 十節四十二  
 十一節四十三  
 十二節四十四  
 十三節四十五  
 十四節四十六  
 十五節四十七  
 十六節四十八  
 十七節四十九  
 十八節五十  
 十九節五十一  
 二十節五十二  
 二十一節五十三  
 二十二節五十四  
 二十三節五十五  
 二十四節五十六  
 二十五節五十七  
 二十六節五十八  
 二十七節五十九  
 二十八節六十  
 二十九節六十一  
 三十節六十二  
 三十一節六十三  
 三十二節六十四  
 三十三節六十五  
 三十四節六十六  
 三十五節六十七  
 三十六節六十八  
 三十七節六十九  
 三十八節七十  
 三十九節七十一  
 四十節七十二  
 四十一節七十三  
 四十二節七十四  
 四十三節七十五  
 四十四節七十六  
 四十五節七十七  
 四十六節七十八  
 四十七節七十九  
 四十八節八十  
 四十九節八十一  
 五十節八十二

るために路に設けあり 怖ろしき事四方において彼を懼れしめ、其星にまたがひて彼をおよぶるの力  
 ハ饑餓、其傍に災禍となり、その鬪の腹ハ蝕壞らる、即ち死の初子これが腹を蝕壞るなり やがて  
 俄ハその恃める天幕より、曳墮されて懼怖の王の許に馳せられん 彼に屬せざる者かれの天幕に住み、礎  
 磧かれの家の上に降ん 下にてハその根枯れ、上にてハその枝折る 彼の跡ハ地に絶え、彼の名ハ街衢に  
 傳らざりし 彼ハ光明の中より黑暗中に還せられ、世の中より驅出されん 彼ハその民の中に子も無く孫も  
 有じまた彼の住所に一人も遺る者なからん 之が目を見るに於いて後に來る者ハ駭らざる、先に出し者  
 ハ怖らるべし かならず惡き人の任所ハ是のごとく、神を知ざる者の所ハ是のごとくなるべし

**第十九章** ヨアテたてて曰く ながら我心をなやまし、言語をもて我を打たたくこと何時までなや  
 三 ながらら已に十次も我を辱しめ我を惡く待らひてなは愧るところ無し 假令われ眞に遇うたらんも  
 五 の過ハ我の身に止れり ながら眞に我に向ひて語り我身に羞へき行爲ありと証するならん 神われを  
 七 虐げろの綱羅をもて我を包みたまへり 知りて 我虐げらるるごとく 呼ぶも答なく、呼ぶも求むれども  
 九 審理なし 彼わが路の周圍も垣を結めぐらして遮る能とざらしめ、我ハ行く途も黑暗を蒙むらしめ、わ  
 十一 光榮を獲き我冠冕を首より奪ひ 四方より我を襲ちて失しめ、我望を欄のごとくに根より拔き 我ハ  
 十三 びかひて震怒を燃し、我を敵の一人と見たまへり 彼の軍旅はどしく進み、途を高くして我に攻寄せ、わ  
 十五 天幕の周圍に陣を張り 彼わが兄弟等をして遠くわれを離れしめたまへり、我を知る人々の全たなく我ハ  
 十七 疎くさりぬ わが親戚ハ往來を休め、わが朋友ハわれを忘れ わが家ハ寄寓る者もよびわが婢等ハ我を  
 十九 見て外人のごとくす、我かれらの前わりの異國人のごとし、われわが僕を喚ぶももて入らず我口をもて彼

一節五〇  
 二節五一  
 三節五二  
 四節五三  
 五節五四  
 六節五五  
 七節五六  
 八節五七  
 九節五八  
 十節五九  
 十一節六〇  
 十二節六一  
 十三節六二  
 十四節六三  
 十五節六四  
 十六節六五  
 十七節六六  
 十八節六七  
 十九節六八  
 二十節六九  
 二十一節七〇  
 二十二節七一  
 二十三節七二  
 二十四節七三  
 二十五節七四  
 二十六節七五  
 二十七節七六  
 二十八節七七  
 二十九節七八  
 三十節七九  
 三十一節八〇  
 三十二節八一  
 三十三節八二  
 三十四節八三  
 三十五節八四  
 三十六節八五  
 三十七節八六  
 三十八節八七  
 三十九節八八  
 四十節八九  
 四十一節九〇  
 四十二節九一  
 四十三節九二  
 四十四節九三  
 四十五節九四  
 四十六節九五  
 四十七節九六  
 四十八節九七  
 四十九節九八  
 五十節九九  
 五十一節一〇〇  
 五十二節一〇一  
 五十三節一〇二  
 五十四節一〇三  
 五十五節一〇四  
 五十六節一〇五  
 五十七節一〇六  
 五十八節一〇七  
 五十九節一〇八  
 六十節一〇九  
 六十一節一一〇  
 六十二節一一一  
 六十三節一一二  
 六十四節一一三  
 六十五節一一四  
 六十六節一一五  
 六十七節一一六  
 六十八節一一七  
 六十九節一一八  
 七十節一一九  
 七十一節一二〇  
 七十二節一二一  
 七十三節一二二  
 七十四節一二三  
 七十五節一二四  
 七十六節一二五  
 七十七節一二六  
 七十八節一二七  
 七十九節一二八  
 八十節一二九  
 八十一節一三〇  
 八十二節一三一  
 八十三節一三二  
 八十四節一三三  
 八十五節一三四  
 八十六節一三五  
 八十七節一三六  
 八十八節一三七  
 八十九節一三八  
 九十節一三九  
 九十一節一四〇  
 九十二節一四一  
 九十三節一四二  
 九十四節一四三  
 九十五節一四四  
 九十六節一四五  
 九十七節一四六  
 九十八節一四七  
 九十九節一四八  
 一百節一四九  
 一百〇一節一五〇  
 一百〇二節一五一  
 一百〇三節一五二  
 一百〇四節一五三  
 一百〇五節一五四  
 一百〇六節一五五  
 一百〇七節一五六  
 一百〇八節一五七  
 一百〇九節一五八  
 一百一〇節一五九  
 一百一十一節一六〇  
 一百一十二節一六一  
 一百一十三節一六二  
 一百一十四節一六三  
 一百一十五節一六四  
 一百一十六節一六五  
 一百一十七節一六六  
 一百一十八節一六七  
 一百一十九節一六八  
 一百二十節一六九  
 一百二十一節一七〇  
 一百二十二節一七一  
 一百二十三節一七二  
 一百二十四節一七三  
 一百二十五節一七四  
 一百二十六節一七五  
 一百二十七節一七六  
 一百二十八節一七七  
 一百二十九節一七八  
 一百三十節一七九  
 一百三十一節一八〇  
 一百三十二節一八一  
 一百三十三節一八二  
 一百三十四節一八三  
 一百三十五節一八四  
 一百三十六節一八五  
 一百三十七節一八六  
 一百三十八節一八七  
 一百三十九節一八八  
 一百四十節一八九  
 一百四十一節一九〇  
 一百四十二節一九一  
 一百四十三節一九二  
 一百四十四節一九三  
 一百四十五節一九四  
 一百四十六節一九五  
 一百四十七節一九六  
 一百四十八節一九七  
 一百四十九節一九八  
 一百五十節一九九  
 一百五十一節二〇〇  
 一百五十二節二〇一  
 一百五十三節二〇二  
 一百五十四節二〇三  
 一百五十五節二〇四  
 一百五十六節二〇五  
 一百五十七節二〇六  
 一百五十八節二〇七  
 一百五十九節二〇八  
 一百六十節二〇九  
 一百六十一節二一〇  
 一百六十二節二一一  
 一百六十三節二一二  
 一百六十四節二一三  
 一百六十五節二一四  
 一百六十六節二一五  
 一百六十七節二一六  
 一百六十八節二一七  
 一百六十九節二一八  
 一百七十節二一九  
 一百七十一節二二〇  
 一百七十二節二二一  
 一百七十三節二二二  
 一百七十四節二二三  
 一百七十五節二二四  
 一百七十六節二二五  
 一百七十七節二二六  
 一百七十八節二二七  
 一百七十九節二二八  
 一百八十節二二九  
 一百八十一節二三〇  
 一百八十二節二三一  
 一百八十三節二三二  
 一百八十四節二三三  
 一百八十五節二三四  
 一百八十六節二三五  
 一百八十七節二三六  
 一百八十八節二三七  
 一百八十九節二三八  
 一百九十節二三九  
 一百九十一節二四〇  
 一百九十二節二四一  
 一百九十三節二四二  
 一百九十四節二四三  
 一百九十五節二四四  
 一百九十六節二四五  
 一百九十七節二四六  
 一百九十八節二四七  
 一百九十九節二四八  
 二百節二四九  
 二百〇一節二五〇  
 二百〇二節二五一  
 二百〇三節二五二  
 二百〇四節二五三  
 二百〇五節二五四  
 二百〇六節二五五  
 二百〇七節二五六  
 二百〇八節二五七  
 二百〇九節二五八  
 二百一〇節二五九  
 二百一十一節二六〇  
 二百一十二節二六一  
 二百一十三節二六二  
 二百一十四節二六三  
 二百一十五節二六四  
 二百一十六節二六五  
 二百一十七節二六六  
 二百一十八節二六七  
 二百一十九節二六八  
 二百二十節二六九  
 二百二十一節二七〇  
 二百二十二節二七一  
 二百二十三節二七二  
 二百二十四節二七三  
 二百二十五節二七四  
 二百二十六節二七五  
 二百二十七節二七六  
 二百二十八節二七七  
 二百二十九節二七八  
 二百三十節二七九  
 二百三十一節二八〇  
 二百三十二節二八一  
 二百三十三節二八二  
 二百三十四節二八三  
 二百三十五節二八四  
 二百三十六節二八五  
 二百三十七節二八六  
 二百三十八節二八七  
 二百三十九節二八八  
 二百四十節二八九  
 二百四十一節二九〇  
 二百四十二節二九一  
 二百四十三節二九二  
 二百四十四節二九三  
 二百四十五節二九四  
 二百四十六節二九五  
 二百四十七節二九六  
 二百四十八節二九七  
 二百四十九節二九八  
 二百五十節二九九  
 二百五十一節三〇〇  
 二百五十二節三〇一  
 二百五十三節三〇二  
 二百五十四節三〇三  
 二百五十五節三〇四  
 二百五十六節三〇五  
 二百五十七節三〇六  
 二百五十八節三〇七  
 二百五十九節三〇八  
 二百六十節三〇九  
 二百六十一節三一〇  
 二百六十二節三一〇